

復興の担い手 広島から発信

ユニタール事務所 メヒヤ所長



ユニタール広島事務所の活動について説明するメヒヤ所長＝広島市中区のユニタール広島事務所（撮影・高2見越正礼）

国連訓練調査研究所（ユニタール）広島事務所は、広島にある唯一の国連機関です。アレクサンダー・メヒヤ所長（43）は、広島での勤務を希望する60人以上の中から選ばれて10月に着任しました。

メヒヤ所長は「国連の使命は平和をつくり、平和を維持することだ」と言います。広島事務所はアフガニスタンの政府関係者たちを対象に、復興のための人材育成に取り組んだり、世界遺産の保護について研究したりしています。広島に置く意義は「広島は世界で初めて原爆の被害に遭い、復興した。人材育成を通じて平和のメッセージを世界に発信できる土地だ」と説明します。

メヒヤ所長はもともと母国エクアドルで外交官をしていました。もっと世界を知りたいと思い、国連で働くことを思いついたそうです。外交官であると同時に大学教授でもあったため、

国連では教えることを目的にユニタールを職場に選びました。広島に来る前は、4年間米国アトランタで勤務していました。

中学生の時にヒロシマを学んだそうです。「あまりに悲劇的な内容でクラスメートが無言になった」と話します。広島がどうやって復興したかを自分の目で見ることは勉強になると思い、広島事務所長に応募しました。

エクアドルは1941～95年の約50年間、隣国ペルーと紛争を繰り返してきました。子どもたちから、ペルー人は敵だ、かかわるなと教えられてきました。しかしペルーの首都リマへ行ってみると、ペルー人が自分と同じスペイン語を話していました。「考え方、行動、文化が違うからこそ、互いに学び合えば新しい自分を見つげられる。夢をかなえるには好奇心が大事。関心を持たずに成功した人はいない」とアドバイスをしてくれました。（中2・小坂しおり）

December 15 2009, *Chugoku Shimbun*:
UNITAR Head emphasis emphasis
humar resource development for reconstruction
from Hiroshima